

## 新潟鉄工所100年史 ◆ 目次

ごあいさつ 取締役会長 鷺尾秀夫 1  
取締役社長 村松綏啓

口 絵 2

## 本 史

### 第 I 章 創業——石油産業の近代化とともに 1895—1910

章口絵 36

- 沿革 38
- 工場の建設 46
- 創業当初の苦闘 48
- 石油事業の伸展に呼応して 50
- 事業分野の拡大 54

### 第 II 章 会社創立——機械産業のパイオニアとして 1910—1936

章口絵 60

- 沿革 62
- 本社(1) 会社創立 70
- 本社(2) 東京への進出 72
- 本社(3) 欧米技術の視察・導入 [付. 鑄造技術の始まり] 74
- 本社(4) 営業・生産拠点の拡大 76
- 本社(5) 創業40周年 78
- エンジニアリング 創立以降の製品・技術の発展 (エンジニアリング) 80
- 原動機(1) ディーゼルエンジンの製造開始1号機にいたるまで 82
- 原動機(2) 蒲田工場の建設 84
- 原動機(3) 創立以降の製品・技術の発展 (原動機) 86
- 機械(1) 創立以降の製品・技術の発展 (工作機) 88
- 機械(2) 創立以降の製品・技術の発展 (石油削井機) 90
- 機械(3) 創立以降の製品・技術の発展 (一般産業機) 92
- 交通システム 創立以降の製品・技術の発展 (交通システム) 94
- 造船 創立以降の製品・技術の発展 (造船) 96

### 第 III 章 戦時下——国家指導体制のもとでの操業 1937—1945

章口絵 100

- 沿革 102
- 本社(1) 戦時体制下での生産品目 108
- 本社(2) 終戦直前の時期の状況 112
- 本社(3) 戦前・戦中の社内教育, 技能養成 114
- 本社(4) 笹村工学奨励会と戦後の教育 116
- エンジニアリング 化工機部門の軍需急増 118

## 第Ⅳ章 総合機械メーカーとしての経営体制の確立を目指して 1945—1963

章口絵 124

沿革	126
本社(1)	民需転換の第一歩 138
本社(2)	労働組合の結成、争議、単一化 140
本社(3)	全社的組織・機構改革 142
本社(4)	相つぐ技術導入と合併会社、関係会社の設立 144
本社(5)	事業部制の導入 150
エンジニアリング(1)	装置産業の復興と近代化に呼応したプラント事業の発展 152
エンジニアリング(2)	プロジェクト・マネジメント制度の導入 154
原動機(1)	過給エンジン時代へ 156
原動機(2)	歯車減速機付き機関(船舶の近代化に対応して) 160
原動機(3)	需要分野の拡大——陸上用の各分野へ 164
機械(1)	海外先進技術の導入による製品近代化 166
機械(2)	チクサン・ローディングアーム物語 168
交通システム	除雪——道路交通網の整備とともに 180
造船(1)	食料確保対策に始まった漁船建造の活発化 184
造船(2)	内航貨物船への進出と巡視船の建造 188
建設機	東京オリンピックに向けての需要拡大への対処 190

## 第Ⅴ章 好況下における体質強化——新潟地震を糧に 1964—1972

章口絵 194

沿革	196
本社(1)	新潟地震——発生から復旧まで 204
本社(2)	大形地区への移転 206
本社(3)	中期経営計画の策定 208
本社(4)	経営合理化とコンピュータの導入 210
エンジニアリング(1)	特筆すべき石油・石油化学プラントの相つぐ受注 212
エンジニアリング(2)	空港給油設備・オイルターミナル市場の開拓と受注の拡大 214
エンジニアリング(3)	環境プラント事業への本格的参入 216
エンジニアリング(4)	プラント輸出体制の整備と実績の順調な拡大 218
原動機(1)	画期的なタグボートの開発 220
原動機(2)	ターボチャージャー量産へ 222
原動機(3)	原子力発電所市場への参入 224
原動機(4)	鑄造技術の変遷 228
機械(1)	射出成形機への参入と量産化 232
機械(2)	NC工作機械の実用化と本格的マシニングセンター時代の幕開き 236
機械(3)	生産フライス盤の活況と、汎用フライス盤の開発、量産化 238
交通システム(1)	地方鉄道の近代化に対応して 240
交通システム(2)	アルミニウム産業の飛躍的發展とともに 242
交通システム(3)	輸出車両の活況 244
造船(1)	漁船新船型の開発 246
造船(2)	船舶修理事業の拡大 248
建設機(1)	国土開発活発化の波に乗って……① 250
建設機(2)	国土開発活発化の波に乗って……② 252
空調	空調機の生産 254

## 第VI章 石油危機と長期不況に対応して 1972—1982

章口絵 258

- 沿革 260
- 本社(1) 本社の霞が関への移転とシステム化の完成 270
- 本社(2) 外債の発行 272
- 本社(3) 時代の変化に対応した組織の見直し 274
- 本社(4) 責任体制の明確化と権限委譲 276
- 本社(5) 新社章・社旗の制定 278
- 本社(6) 広報戦略の見直しと改善 280
- 本社(7) 海外拠点の拡充 282
- 本社(8) 国内営業網の拡充・強化 286
- エンジニアリング(1) 石油・化学プラント需要構造の変貌と対応 288
- エンジニアリング(2) ファインケミカル・プラント事業の発展 290
- エンジニアリング(3) 環境関連プラント事業の総合化と業容の拡大 292
- エンジニアリング(4) プラント輸出の地域的拡大と海外拠点の整備 294
- エンジニアリング(5) 横浜工場の足跡 296
- 原動機(1) 燃料油高騰に直面して 298
- 原動機(2) 地球環境問題をいち早く見透して 302
- 原動機(3) 蒲田内燃機工場の太田工場への移転 304
- 原動機(4) 国際化推進への第一歩 306
- 原動機(5) ガスタービン事業化の歩み 308
- 原動機(6) 大型機関市場への参入 310
- 原動機(7) 技術開発体制の強化とプラントエンジニアリング体制の確立 312
- 機械(1) マシニングセンターのシステム化時代の到来 314
- 機械(2) 「第6白竜」搭載リグ機器と地熱掘削リグの開発 316
- 機械(3) 成形機SNシリーズ 318
- 交通システム(1) 車両更新需要の活発化 322
- 交通システム(2) 新しい都市交通分野へのシステム展開を目指して 324
- 造船(1) 多彩な輸出船の建造 328
- 造船(2) 新造船建造の効率化を目指して 330
- 造船(3) 漁業の変化に対応した開発 332
- 造船(4) 新しい輸出戦略 336
- 建設機(1) 省人化時代への対処 338
- 建設機(2) 輸出市場の開拓 340

## 第VII章 事業構造の改革に邁進して 1982—1991

章口絵 344

- 沿革 346
- 本社(1) 全面的事業部制への移行 354
- 本社(2) 技術開発センタービルの完成 356
- 本社(3) CS作戦活動の歩み 358
- エンジニアリング(1) 大型石油精製プラントの実績 360
- エンジニアリング(2) 多様化する化学プラント需要への対応 362
- エンジニアリング(3) 石油製品備蓄・流通基地、空港給油施設の実績拡大 364
- エンジニアリング(4) し尿・下水処理装置の実績拡大 366
- エンジニアリング(5) 医薬製剤プラント、FA関連等新規事業の本格化 368
- エンジニアリング(6) プラント輸出の新たな展開 370
- 原動機(1) 中速エンジンの革新 372

原動機(2)	コジェネレーション(熱電併給システム)市場への対応	374
原動機(3)	ガスタービン市場へ本格参入	376
原動機(4)	推進装置のワイドバリエーション化	380
原動機(5)	ディーゼル機関生産2,000万馬力達成への歩み	382
機械(1)	FMS(フレキシブル・マニファクチュアリング・システム)	384
機械(2)	射出成形機累計生産台数1万台達成	386
機械(3)	無人化・高速化精密加工技術への対応	388
交通システム(1)	三陸鉄道(第三セクター第1号)への納入	392
交通システム(2)	各地に広がる新交通システム	394
交通システム(3)	国鉄の民営化に対応して	396
交通システム(4)	長大橋梁(維持管理用)機械設備の開発	398
造船(1)	小型高付加価値船の大型化	400
造船(2)	工場内設備の合理化	404
建設機(1)	安全性と効率の追求	406
建設機(2)	ホイール型フィニッシャー需要の高まり	408
建設機(3)	都市ビルの高層化に対処して	410
建設機(4)	都市部の環境に対応したアスファルトプラントの開発	412
事業開発	マリンビーフの開発	414

## 第八章 21世紀への発展に向けて 1991—1995

### 章口絵 420

沿革	422	
本社(1)	高等職業訓練校の創設	432
本社(2)	厚生施設の充実	434
本社(3)	新人事制度の導入	436
本社(4)	システム化の進展	438
本社(5)	100周年記念事業	440
本社(6)	21世紀への夢	442
エンジニアリング(1)	石油関連設備の投資動向の変化と特筆すべきプロジェクトの受注	444
エンジニアリング(2)	内外空港給油設備の継続的受注	446
エンジニアリング(3)	化学プラント需要構造の変化への対応	448
エンジニアリング(4)	環境プラント事業のさらなる飛躍	450
エンジニアリング(5)	プラント輸出の着実な進展	452
エンジニアリング(6)	新規事業の急速な業容拡大	454
エンジニアリング(7)	最新鋭の横浜工場完成	456
原動機(1)	海上輸送の高速化に対応して	458
原動機(2)	クリーンエネルギーシステムの商品化	460
原動機(3)	国際化の推進	464
原動機(4)	大型商船用発電機関市場への本格参入	466
原動機(5)	大型機関の自社開発	468
原動機(6)	新潟ガスタービン工場の発足	470
交通システム	次代の新交通システムを目指して	472
建設機(1)	センターレ21の開発	476
建設機(2)	建設機械の相つぐ開発	478

## 百年点描

- 「支店」と「附属」 41  
 明治28年生まれの時台 42  
 先人の見識をしのぶ 45  
 第五日本海丸の事故 53  
 初代新潟奉行の功績 56  
 商都大阪での博覧会 56  
 五代勤務ものがたり 75  
 造船技術のルーツを訪ねて 105  
 100年前の新潟・東京 107  
 行形亭 いさなりや 110  
 万代橋の基礎は当社製 110  
 学徒動員の人たち 120  
 白秋・耕筰コンビによる社歌 120  
 戦前の争議、戦後の争議 135  
 鋳物師だまし 159  
 エンジニアリング部門の夜明け 163  
 新潟鉄工で教えられたこと 165  
 世界を駆けるブランド 179  
 戦中戦後の車両工場の思い出 181  
 神様の引越 215  
 海外苦勞話 219  
 地熱掘削リグ [九州電力のケース] 235  
 輸出船花ざかり 253  
 離島の生活水準向上への努力 268  
 新潟の思ひ出 千種成吾楼 285  
 名人たちのあしあと 287  
 FCへの挑戦 新規事業を求めて① 291  
 炎暑のサウジに25年 293  
 相づく表彰 295  
 住吉漢業 海国日本・水産の伝統とともに① 301  
 NSAシリーズの開発 313  
 ミクロの世界に挑戦 321  
 私の体験と感想 (抜粋①) 笹村吉郎 327  
 北の海から 海国日本・水産の伝統とともに② 335  
 Mc SWINGのデビュー 341  
 「まぐろ家」繁昌記 355  
 私の体験と感想 (抜粋②) 笹村吉郎 361  
 私の体験と感想 (抜粋③) 笹村吉郎 363  
 私の体験と感想 (抜粋④) 笹村吉郎 365  
 私の体験と感想 (抜粋⑤) 笹村吉郎 367  
 FAへの軌跡 新規事業を求めて② 369  
 私の体験と感想 (抜粋⑥) 笹村吉郎 371  
 私の体験と感想 (抜粋⑦) 笹村吉郎 375  
 私の体験と感想 (抜粋⑧) 笹村吉郎 379  
 ロングセラーにも生みの苦しみ 391  
 私の体験と感想 (抜粋⑨) 笹村吉郎 393  
 私の体験と感想 (抜粋⑩) 笹村吉郎 403  
 私の体験と感想 (抜粋⑪) 笹村吉郎 409  
 私の体験と感想 (抜粋⑫) 笹村吉郎 411  
 天に声あり、人をして語らしむ 417  
 私の体験と感想 (抜粋⑬) 笹村吉郎 433  
 私の体験と感想 (抜粋⑭) 笹村吉郎 447  
 私の体験と感想 (抜粋⑮) 笹村吉郎 449  
 造船部門の歴史の中で 岡本忠毅 453  
 海外出張昔話 藤井誠一 463  
 新潟コンバーターKK 坂内良二 475  
 ターボチャージャー(TC)についての思い出 大槻政一 481

## 資料編

## I 経営と組織 484

1. 定款 484
  - [1] 原始定款 484
  - [2] 現行定款 485
  - [3] 事業目的の主な変遷 487
2. 役員 488
  - [1] 役員在任期間一覧 488
  - [2] 歴代会長・社長 493
  - [3] 現役員 494
3. 組織 496
  - [1] 現行組織 496
  - [2] 事業所の変遷 498
  - [3] 現事業所一覧 502

## II 財務と株式 503

1. 資本金の推移 503
2. 売上高・経常利益・当期利益の推移 504

3. 事業部門別売上高の推移 506

4. 大株主の変遷 508

### Ⅲ 研究開発 510

1. 特許・実用新案出願件数の推移 510

2. 技術導入・供与・共同開発 511

[1] 技術導入 511

[2] 技術供与 511

[3] 共同開発 512

3. 研究開発の変遷 513

### Ⅳ 生産と製品 516

1. 工場の概要 516

2. 分野別製品の系譜 530

[1] 原動機 530

[2] 工作機 532

[3] 産業機 534

[4] 交通システム 536

[5] 造船 538

[6] 建設機 540

[7] エンジニアリング 542

3. 事業部門別生産実績 544

[1] 原動機 544

[2] 工作機 546

[3] 産業機 548

[4] 交通システム 550

[5] 建設機 552

[6] 鋳造品 553

[7] 造船 554

[8] エンジニアリング 555

### V 生産と販売 556

地域別・事業部門別輸出高の推移

### Ⅵ 関連会社 561

関連会社の概要

### Ⅶ 人事 571

従業員数の推移

年表 573

参考文献一覧 606

編集後記 607